

ゆに わーるど

2012/1
Vol.40

UNIDO ITPO Tokyo



2011年の活動状況

グリーン産業開発支援国際会議2011

世界の国から
ベトナム社会主義共和国



ホーチミン市内の様子

「グリーン産業開発支援国際会議 2011」を開催

UNIDO は経済産業省との共催で2011年11月16日から18日まで東京ビッグサイトで「グリーン産業開発支援国際会議2011」を開催しました。また、同時開催された「INCHEM TOKYO 2011」展示会場内の「グリーン産業開発支援国際展2011」にブースを出展しました。

会議では環境及び資源の保全技術と成功事例を取り上げ、資源の使用量や汚染を大幅に削減するための政策やビジネスソリューションが議論されました。さらに、国際的に普及している利用可

能技術や最良の環境保全事例と、これらのニーズをマッチングさせるための機会を提供しました。

会議には50か国から約500名以上が参加し、活発な議論が行われました。



会議の主な内容については、最終ページをご覧ください。

2011年の活動状況

2011年1月～12月の一年間における
UNIDO 東京事務所の主な活動をご紹介します。

1 投資・技術移転促進専門官の招聘

途上国より投資・技術移転促進専門官を日本に招聘し、セミナーの開催、企業・団体との個別面談等を通じて、現地のビジネス環境や個別の投資・技術案件の紹介などを行ないました。昨年度は下記10カ国より12名が参加しました（氏名、所属団体、招聘期間、重点分野の順に記載）。



南アフリカ

ウナティ・スピーアーズ氏
東ケープ州イースト・ロンドン工業
開発区 (ELIDZ) マネージャー
1月24日～2月8日 農産品加工、自動車部品、エネルギー、IT



ドミニカ共和国

レナット・コロソ氏
ドミニカ共和国農業省
6月27日～7月8日 パナナ繊維の加工



南アフリカ

サム・マロカ氏
リンボポ州貿易投資庁 (TIL)
マーケティング・マネージャー
2月28日～3月15日 エネルギー、農産品加工



カンボジア

キー・セイン・ホア氏
カンボジア鉱工業・エネルギー省
大臣秘書官
7月20日～8月3日 農産品加工、軽工業、エネルギー



バングラデシュ

ジャラルル・ハイ氏
バングラデシュ投資庁 (BOI)
外国投資担当部長
3月2日～16日 繊維・アパレル、電子部品、IT



ケニア

グラチャ・アディ氏
ケニア投資庁 (KenInvest)
投資サービス部マネージャー
11月14日～20日 グリーン産業開発支援国際会議・展示会参加



インド

S・スグマール氏
プラスチック工学・技術中央研究所 (CIPET)
チーフテクニカル・マネージャー
3月14日～16日、11月14日～26日 廃プラスチック処理



トルコ

エムレ・ブユキリック氏
トルコ投資サポート促進庁 (ISPAT)
プロジェクト・ディレクター
11月15日～21日 グリーン産業開発支援国際会議・展示会参加



ウガンダ

アブドゥル・カスレ氏
ウガンダ投資庁 (UIA)
ビジネス開発スペシャリスト
5月23日～6月3日



ベトナム

レ・スアン・ティン氏
ベトナム・クリーン・プロダクション・センター (VNCPC)
コンサルタント
11月15日～26日 グリーン産業開発支援国際会議・展示会参加



ボツワナ

レイトゥメツェ・アピリ氏
ボツワナ輸出振興投資局 (BEDIA)
国際市場部マネージャー
6月13日～24日 資源・エネルギー



ベトナム

ディン・マン・フン氏
ベトナム商工会議所 (VCCI)
中小企業促進センター次長
12月6日～21日 自動車部品、機械、金属加工

2 投資促進セミナーの開催

バングラデシュ、カンボジア、モロッコ、ベトナム、インド、トルコ、フィリピン、ブルガリア、アフリカ諸国を対象とした計15件の投資促進セミナーを政府関連機関、業界団体などと協力して開催しました。

3 海外へのミッション派遣

- インド：プラスチックのリサイクル事業視察(1月)
- カンボジア、ベトナム、タイ：カンボジア、ベトナムからの招聘事業について関係者と協議、及び現地投資環境について調査(6月)
- オーストリア：「ウィーン・エネルギー・フォーラム」及び「グリーン産業開発支援国際会議」

準備会合への参加(6～7月)

- 中国：アモイでの「中国・アフリカ投資シンポジウム」、アフリカ投資ネットワーク会議に参加(9月)
- オーストリア：UNIDO 総会及びUNIDO 投資・技術移転促進事務所長会議に参加(11～12月)
- ルワンダ、ウガンダ：アフリカ投資ネットワーク関連事業への参加(12月)

4 海外からの訪問者受入れ

- ウズベキスタン投資促進庁理事およびウズベキスタン電子製造者協会会長(1月)
- スリランカ投資庁常務理事(6月)

- モロッコ投資開発庁長官、モロッコ自動車貿易産業協会会長他4名(12月)

5 グリーン産業開発支援国際会議 及び関連事業の開催

11月16日～18日、東京ビッグサイトにて、UNIDO 及び経済産業省主催による「グリーン産業開発支援国際会議2011」が、50カ国、500名の参加を得て開催されました。また、同時開催された「グリーン産業開発支援国際展2011」に出展、UNIDO 活動の紹介を行なったほか、海外からの会議参加者と展示会出展の日本企業との間でビジネス・マッチングを実施しました。

6 その他主な事業

- 中小企業行政に携わるアフリカ諸国行政官及び在京アフリカ大使館向けに中小企業支援円卓会議を開催(2月)
- 「川崎国際環境技術展2011」に出展(2月)
- 「国際女性の日2011シンポジウム」を他の国連機関と共催(3月)
- 民間企業向けにUNIDO 財務分析ソフト「COMFAR」演習を実施(4月)
- 金融機関及びその取引先を対象にアジア新興国の投資環境について講演(5月、10月)
- アフリカ・セミナー「アフリカの可能性とビジネスチャンス」を開催(6月)
- スリランカ投資庁と日本企業との個別投資相談会を開催(6月)
- 「グローバルフェスタ2011」に参加(10月)
- 「バイオ・ジャパン2011」にて、19大使館参加のもと、バイオ産業についての懇談会を開催(10月)
- アフリカ外交団を対象としたワークショップをJICA、三菱東京UFJ銀行と共催(10月)
- ベトナム、ラオス、カンボジア、スリランカのUNIDO プロジェクト当事者向けにエコタウン研修事業を実施(11月)
- ベトナム、インドのUNIDO プロジェクト当事者向けに鉄鋼(電炉の環境対策)研修事業を実施(11月)



モロッコ王国投資促進セミナー

from the world
世界の国から

ベトナム社会主義共和国

Socialist Republic of Vietnam



ディン・マン・フン氏

ベトナム商工会議所
中小企業促進センター次長

Mr. Dinh Manh Hung
Deputy Director, Small and Medium
Enterprise Promotion Center
Vietnam Chamber of Commerce and
Industry (VCCI) (Hanoi, Vietnam)

首都 ハノイ
面積 約33万平方キロメートル
人口 約8,579万人
(2009年4月1日時点国勢調査)
政体 社会主義共和国
元首 チュオン・タン・サン国家主席
言語 ベトナム語
通貨 ドン



安定的な発展を目指す親日の国



ベトナムのメガネ工場(写真提供:日本精密株式会社)

裾野産業の育成

ベトナムには日系企業が既に1千社近く進出しており、また2009年10月には日本とベトナムとの間で経済連携協定(EPA)が発効したこともあり、これから両国の関係はますます緊密化すると思われれます。しかしながら、ベトナムでは製造業を支えるいわゆる「裾野産業」がまだ十分に発達しておらず、今後ベトナムの安定的な経済成長にはその強化・育成が不可欠です。この度の来日目的は、高い技術を持つ日本のサプライヤーにベトナムへの進出を促すこと、またベトナムのサプライヤーを日本企業にアピールすることです。

今回は約2週間の滞在中に、富山と名古屋でセミナーを開催したほか、東京はじめ、福岡、広島、大阪、浜松などで数多くの企業・団体関係者と個別に面談することができ、好感触を得ました。また、複数の企業の工場やショールームを見学し、日本企業の技術力の高さに改

めて感心するとともに、ベトナムは技術、経験、マネジメントなど多くのことを学ぶ必要があると感じました。

ベトナム企業情報を紹介

ベトナム商工会議所は、ベトナム企業の情報をデータベース化し、ベトナムへの進出を検討している外国企業に広く紹介しています。データベースには機械、プラスチック・ゴム、電気・電子、エネルギー、工業サービス、その他の6分野に分類された企業の詳細情報がベトナム語と英語で登録されています。現在の登録企業数は480社ですが、2012年6月までには約600社に増やす予定です。ベトナムのサプライヤーや合弁相手を探している企業には私共がご希望に応じて候補となる企業を紹介します。また、ベトナムに進出している企業であれば日本企業でも登録が可能です。

日本企業が進出しやすい ビジネス環境

既に数多くの日本企業が進出していることからわかるように、ベトナムは日本にとって馴染みやすい国です。若く、勤勉で、優秀な労働力を確保することは難しくありません。また、JICAなどの協力を受けて職業訓練のさらなる充実も

図っています。

インフラも整いつつあります。電力が不足気味ですが、政府は再生可能エネルギーの開発や水力・火力発電所の建設に積極的に取り組んでいます。また、送電網を整備し近隣諸国からの輸入を強化しており、課題は解決に向かっていきます。また、ハノイやホーチミンでは交通渋滞が問題になっていますが、既に地下鉄建設プロジェクトがスタートしており、渋滞の緩和につながると期待されています。

ベトナムは中国や他の東アジア・東南アジアの市場に近く、今後アジアの経済発展の可能性を考えると地理的に非常に有利な位置にあると言えます。日本からもそれほど遠くありません。日本とベトナムは政府レベルでも民間レベルでも大変友好的な関係にあり、ベトナム人の対日感情も非常によく、食事やセキュリティの問題もありません。この関係をさらに発展さ

せるためにも、多くの日本企業がベトナムに進出し、またベトナム企業と提携することを期待しています。



世界遺産・ハロン湾
(['とらべった旅行記']より)

「グリーン産業開発支援国際会議 2011」を開催（一面より続く）

■ 第1日

第1日は、開会式とハイレベルセッションが行われました。

開会セッションは、UNIDO国連代表のジョージ・アサフ氏の開会挨拶で始まり、経済産業大臣政務官の北神圭朗氏、外務大臣政務官の加藤敏幸氏、UNIDO事務局長のカンデ・ユムケラー氏の挨拶、国連事務総長の潘基文氏のビデオメッセージに続いて、株式会社東芝取締役会長の西田厚聡氏と政策研究大学院大学学長の白石隆氏が基調講演を行いました。

西田氏は、今日人類は経済成長、環境保全、資源の確保という3つの問題（トリレンマ）を同時に解決する必要に迫られていると述べました。東芝は、プロセス、製品、技術革新の3本の柱で、これらの問題に取り組ん



東芝取締役会長 西田厚聡氏

でいることを説明。プロセスについては、製造過程を見直すことで環境負荷の削減を進め、また2010年度東芝の16の製品が環境調和製品として認められていることをアピールしました。さらに、低エネルギー消費、低炭素社会を目指し、エネルギーから、情報、セキュリティ、上下水道システム、輸送、医療まですべてをまとめた総合的ソリューションを実現するための技術革新に取り組んでいることを強調しました。最後に、官民が協力し、世界中で成功事例を作り出すことによって、トリレンマを解決できる

として講演を締めくくりました。白石氏は、これから20年ぐらいはアジアが世界の成長センターになることが確実だが、一か国の均衡成長というよりは同一国内で複数の地域がメガリージョンとして成長していこうと述べました。また、グリーン産業がメガリージョン内の



政策研究大学院大学学長 白石隆氏

成長産業の重要な柱になるという見通しを示しました。さらに、これから10年ぐらいのうちに、社会インフラのグリーン化が進み、情報とエネルギーが一体となった巨大ネットワークシステムが作られていくことになるが、現行のシステムではそれに対応できず、各国、各地域の実情に合った

テラーメイドの新たなシステムの構築が必要になると説明。そのためには、UNIDOのような国際機関、東アジアさらには世界各地の政府、企業が、共同で取り組む必要があり、この会議では是非国際的な連携の可能性を探ってほしいと訴えました。

ハイレベルセッションでは、政府及びビジネスリーダーのパネル討論会と市長円卓会議が行われました。

パネル討論会には、ラオス、フィリピン、ベトナム、アフガニスタン、インドネシア、ネパール、スリランカ、タイの政府代表が参加し、グリーン産業の革新的政策及びビジネスソリューションについて活発な議論を行いました。具体的にはマニラ・グリーン産業宣言署名国の取り組み、優れた政策事例とその普及、グリーン技術開発のための国際協力の迅速化、優れたビジネスモデルとその展開などが討論のテーマとして取り上げられました。

市長円卓会議では、北九州、川崎、横浜の3市とベトナムのホイアン市の代表が、グリーン産業開発を可能にする地方自治について語り合いました。

■ 第2日

第2日は、各国の研究者や企業関係者が集い、技術セッションが行われました。「資源利用率の向上、省資源」「3R産業」「環境負荷物質の排出抑制」「公害防止産業」「再生可能エネルギー産業」「化学物質管理」の6つの分科会に分かれ、主に技術的な面からグリーン産業の現状と課題について議論が交わされました。



「グリーン産業開発支援国際展2011」でのUNIDOブース

また、サイドイベントとして、「グリーンITの取り組み」と「二国間オフセット・クレジット制度」についての説明と検討が行われました。

■ 第3日

第3日は、「グリーン産業開発を可能にするビジネス」をテーマに、ビジネスリーダーの円卓会議が開かれ、ビジネス主導のグリーン産業の取り組みとその普及などについて討論が行なわれました。その後の閉会式では、主催者による会議総括の発表と2012年のリオ+20の準備計画についての討論が行われ、3日間にわたる会議は閉幕しました。

■ 「グリーン産業開発支援国際展 2011」

会議と並行して開催された「グリーン産業開発支援国際展 2011」では、「エネルギー」・「環境」・「水」ビジネスの海外市場展開に関する各種ソリューションや製品が、民間企業や政府・自治体・団体などにより展示されました。UNIDOブースでは、「産業のグリーン化」と「グリーン産業の創造」を2本の柱として、UNIDOがこれまで世界各地で行ってきたプロジェクトについての展示やプレゼンテーションが行われました。また会期中、会議への海外参加者と日本の展示会出展企業との間でビジネスマッチング（個別商談会）がUNIDOと日本能率協会により実施されました。

会議のプログラム、講演資料等については、下記サイトをご参照ください。

<http://www.unido.org/index.php?id=1001806>